

教祖の教えとオウム真理教

オウム真理教とおやさまの教えの違いおてや何かということが、どこへ行っても尋ねられる質問です。

大問題なのですが、一言で、「オウムとお道とは違います」などといったついても答えになっていないので、質問事項に答えるという形で整地したいと思います。「何故宗教が争わせるのですか」という質問を受けたので、何故宗教が人々を争わせるかということについて解説したいと思います。

例えば、教会長家族の間でも宗派が違う場合があります。有名な某大教会の初代会長さんの奥さんが、自分はお寺の娘だからと、最後まで教会の中に仏壇を置いて拝んでいたという話があります。家族が信仰している宗教が違うということが色々な問題を起こしています

その中で最近耳にしたのは、教会長子弟の後継者の配偶者がキリスト教徒だったというものでした。

また、現在の世界の戦争は宗教によって起こされているということが、現在の中学生には学校教育で整理されて教えられています。

かつては、支配権を争奪するという、権力争いが政治闘争となっていました。その次に目立って来たのが経済戦争です。

このように言われていたのですが、ベトナム戦争以降、現在は経済戦争もなくなったのに、宗教が原因と思われる戦争だけは激しく行われています。

宗教を大別すると三つあります。

一番目は、人間は欲望を持ち、闘争本能を持っているとする宗教です。一言で言うと、人間は倒し合い人間であるという認識から、倒し合い人間が倒し合いで倒し勝つために神様に御利益を願う信仰です。

拝み祈祷の信仰です。

拝み祈祷が一番多いのです。

二番目として、倒し合い人間の助け合いを教えた宗教があります。

この代表が仏教です。

三番目に人間を倒し合い動物とすることが間違いというものがあります。

人間は倒し合い動物の姿で生まれ出るけれども、十五年間育てられている間に助け人間になると教えて下さいました。

たすけ合い人間が助け合う宗教が教祖の教えです。

宗教をこのように三つに分けるとよくわかると思います。

倒し合い人間が勝つための信仰

一番目の、倒し合い人間の倒し合いに勝つために、神が定めた戒律を守り、神に服従して、ご利益を願うという宗教が、歴史的にはどのように辿ってきたかをみてみたいと思います。

この宗教は、オギャーと生まれでた時が純粋な人間であり、無邪気な人間は欲望を持ち、闘争本能を持っているという認識から出てきた歴史の中で起きました。

旧約聖書の教え

ヒンズー教の輪廻転生

倒し合い人間が助け合う宗教 仏教

助け合い人間が助け合う信仰

かんろだい

かぐらづとめ

手踊りのつとめ

拝み祈祷でないつとめ

拝み祈祷でないさづけ

応法の理

NO347

八紘一字とオウム真理教

また、オウム真理教が出たときに、麻原彰晃を仏教者と称えていますが、教理から言うと旧約聖書の考え方とヒンズー教の考え方とごちやごちやにしています。何れにしる神の命令ならば殺人も罪ではない、生き神様の命令とか生き仏様の命令ならばそれは世間の知恵で悪と言われることも善になるとしていました。

それも相当のインテリの中でも中以上に属すると思われる人が、その思いで動いたことに日本中が仰天しました。それと同時に今時こんなことが、と冷笑する人たちも多かったです。

日本の歴史を振り返ってみますと、昭和二十年八月までほとんどの人がオウム真理教の信者と同じような状態にありました。

昭和十六年十二月八日に出た宣戦の詔勅でわ、日清戦争の時から同じ立場で宣言されていますが、

「天佑を保有し万世一系の皇祚を踐める大日本帝国天皇は」

と名乗っています。

初代神武天皇が、この地上の国は「吾が子孫の王たるべき地なり」

という天照大神の方針に基づいて、まつろわぬ者は平らげて初代天皇の地位に就いた。そしてここの都を基にして、「八紘をおいて宇と為す」。と世界中を天皇が支配することは良いことであると宣言した。

その日本天皇制の出発から、代々万世一系のその方針を受け継いで、百二十四代目の裕仁天皇が生き神として天照大神の子孫として、八紘一字を妨げるアメリカ・イギリスに戦いを宣する。だからアメリカ・イギリスと戦うことが善であるという詔勅であったのです。

これが昨日までアメリカ人を殺せば日本でも殺人罪になる、国際法でも裁かなければならないという状況が罰を受けるどころか勲章を授与される善になると言っていて聞かされました。それを信じる者も大勢いて信じない人も状況の中で追いやられて、敵を殺しことが善であるという行動をとらされて来たのです。

そして昭和の戦争だけで約二千万の外国人を殺しました。日本は三百十万人の戦死戦災死を数えました。多くの敵を殺した歴史を持っているのです。

戦争が終わったなら、生き神様として私の命令に従っての殺人は勲章を与えるほど善であると言っていた天皇が私を現人神と言うのは神話と伝説の世界であって架空なる観念、いわば迷信だと宣言しました。私は髪でないという宣言をしたのです。

これは建前から言えば、私の命令を聞けば殺人も善になるといって人が殺させておいて、私は神ではないと言ったのですから、大変な悩みを背負い込むのは実際に戦わされた人なのです。

そんなことを善であると言い通した君主がいても何の気休めにしかりません。

ベトナム戦争の終わりの頃、アメリカのホワイトハウスに向かって勲章を投げ返すというアメリカ軍人が反戦運動として広く世界に報道されました。

これは国家元首が命令すれば国民は敵国人を殺して善になるという建前が、天皇の人間宣言が起ころなくとも、皆の悩みを解決するものになっていない証拠でした

そして山折哲雄（本願寺）さんの話に出てこない神戸の少年殺人事件の時に「バモイドオキ」という神の命令であるから、神に捧げる行動として殺人を行ったから、私は悪くない、と少年が最初に言っ

たことで皆びっくりしました。

少年だから、いったい何を考えるからと言いましたが「バイオ」「モドキ」を一文字づつ入れて神と言っていることを見ると、この子供の育っている環境がわかります。バイオは生命のことで、モドキは紛い者という日本語であることを皆が知っている、相当の知識人が多い環境だと思います。子供たちの会話でわかります。

そして、それに関しての子供の座談会で、同じ年の子供が、「なぜ人を殺してはいけないの」という疑問を投げかけた時にも、日本人は神の戒律だからいけないというようにはっきり答えないことから、宗教は死んだ、道徳も行われていないと多くの人は言っています。

しかし実は、日本はこのことについて他所の人達よりも考え方が広く、色々と深刻に考えているから簡単には答えられなかったと私は感じました。

確かに色々な事件が起こったとき、日本の宗教者が立ちすくんでしまっている姿を、山折さんは日本の宗教の死と捉えています。

私はこれを日本の宗教の死とは捉えません。世界の迷信は日本で消えていくと私は感じたのです。